

例会報告

海岸の漂着物を調べよう

佐賀市 (2024.9.21)

今回の例会報告は、参加者の感想をそのまま掲載します。海洋ゴミの問題にとっても関心があり、とても素敵な感想ばかりです。

○福西さん家族より

小学2年生男子感想「ゴミ拾いは面白かった。プラスチックのゴミがあんなにあるとは知らなかった。お兄さんお姉さんの説明が分かりやすかった。」

保護者感想「実体験の重要さを改めて感じた1日でした。種類によっては拾うと砕けて更に回収できなくなったりして、プラスチックそのものを減らす必要性がよく分かりました。その後の授業も興味深く、フィールドワークを集めて分析・データ化・視覚化・公表・議論・今後～という基本的な流れも分かりやすく教えて頂いた気がします。今後の課外活動、自由研究の際にも良い経験でした。帰り道に岩・石・砂利・砂・プラスチック・泥みたいな分類になるかもね～というような話をしました。」ご準備頂いた関係者の方々誠にありがとうございました。

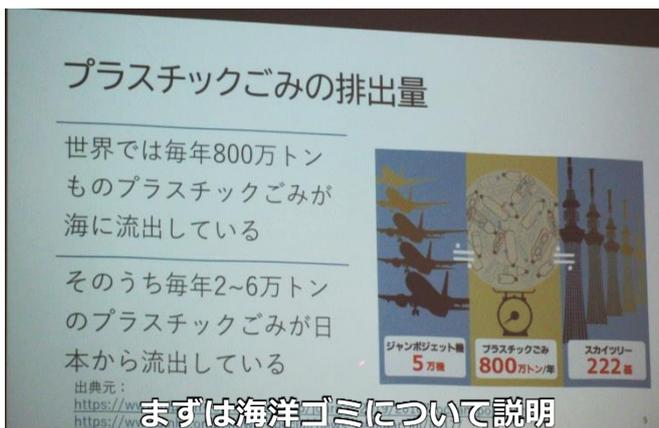
○杉田さん家族より

マイクロプラスチック。この言葉と海を漂う小さなプラスチックで、環境や生態系に影響を与える。というくらいの知識で、分かったようなつもりでいました。実際に漂着物を集めてみると、環境問題を叫ばれている事の重大さを身を以て知りました。マイクロプラスチックはどうやって回収するのでしょうか。一つ一つ回収するのは難しいと感じました。帰宅後に息子が、マイクロプラスチックになる前にゴミを拾いたい。ゴミはゴミ箱に捨てて、分別を頑張りたいと話しておりました。親子で、環境問題や有明海にいる生き物の行方を考える事ができて、有意義な一日となりました。ありがとうございました。

○田端力崇さんより

今回は、いつも気にしない漂着ゴミの種類の内訳などを分析できてどんなゴミが多く漂着しているのかがよくわかりました。私は、プラスチックごみが最も多いのではと思っていましたが、プラスチックゴミと同じくらいの量の発泡スチロールも流れてきていて予想外のことにびっくりしました。また、ノリの養殖に使われるフジツボ除けなどや農業に使われるものまでが川を通じてやってきており、身の回りの様々なゴミが干潟を汚してしまっている所以他们を分析し減らす方法までを考えて面白かったです。

当日私たちのお世話をしていただいた佐賀大学農学部生物資源科学科食資源環境科学コース浅海干潟環境学分野の郡山益実准教授をはじめ、学部生の石井さん、杉原さん、内藤さん、太田さん、神谷さん、吉田さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(参加者 24名 スタッフ含む)





いろんな種類のプラゴミがあったよ



小さなプラゴミも発見!



分別作業開始!



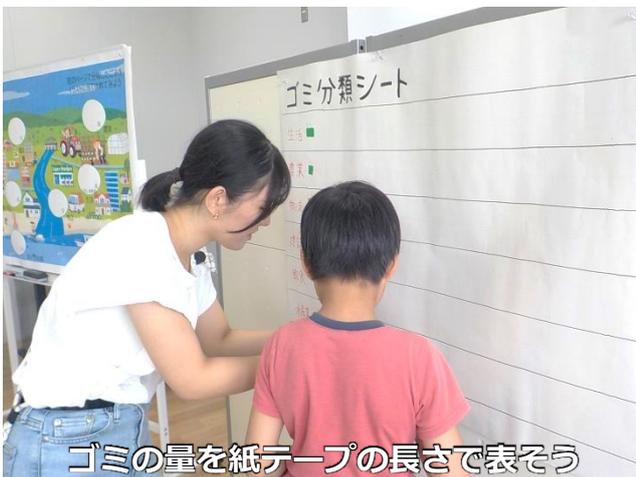
これはどんな時に出了ゴミなのかな



分別した数を記録していこうね



どんな種類のプラゴミが多かったかな



ゴミの量を紙テープの長さで表そう



郡山先生からまとめのお話を聞く